

令和 5 年度 第 2 回磐田市多文化共生社会推進協議会 摘録

日 時	令和5年 10 月 20 日(金)午後7時 00 分～午後 8 時 30 分
場 所	磐田市役所 本庁舎4階 大会議室
出席委員	田中副会長、藤原委員、川原委員、相川委員、鈴木委員、 伊藤委員、仲村委員、松井委員、神谷委員、
事 務 局	ダイバーシティ推進室長、担当職員 2 名
オブザーバー	学校教育課 担当職員 1 名 多文化交流センター センター長

[会議内容]

1 開会

2 副会長あいさつ

3 報告事項

(1) 第 1 回協議会の振り返りについて

資料 1

(2) 磐田市版やさしい日本語ガイドブックについて

資料 2

(3) 外国人アンバサダー就任について

資料 3

4 協議事項

(1) 次年度開催予定 県西部地域合同

資料 4

企業向けセミナー事業について

5 閉会

[会議概要摘録]

1 開会

2 副会長あいさつ

・キャリア教育について

ブラジル人学校で講話する機会があり、ブラジル籍の高校 3 年生に進路について話をした。卒業を 2 ヶ月後に控える 15 人の内、14 人が卒業後の進路が“わからない”と答えた。学習支援も大切だが、キャリア教育についても適切な支援を検討する必要がある。

3 報告事項における主な意見

連絡事項

- ・国際フェスタについて

令和5年11月11日(土)、12日(日)に開催する。

これまで「フェア」としていたが、内容を見直し「フェスタ」と改称した。

(1) やさしい日本語×翻訳アプリの周知

- ・外国人としては、やさしい日本語を使ってもらえるとありがたい。

そして、翻訳アプリと一緒に使ってもらえると、コミュニケーションがスムーズに行えるため、ぜひより多くの人に周知をしてもらいたい。

(2) 外国人アンバサダーの構成

- ・現在、若者世代のアンバサダーはいない。

若者に向けたキャリア教育などの情報は、近い世代の方がいた方が良い。

(3) 顔を合わせる情報発信

- ・SNSを活用することも大事ではあるが、互いの顔が見える場を作ることで、「心の距離」を縮めることが大切である。

“伝える”情報発信から、“伝わる”情報発信にしていくには、もっと親近感や興味を持ってもらうための取組みが必要。

4 協議事項における主な意見

(1) 次年度開催予定 県西部地域合同 企業向けセミナー事業に向けて

- ・ワークショップ形式で、ワークシートを活用して議論を実施した。

議論結果については、別紙ワークシートに取りまとめ。

内容	企業に自分事として考えてもらうために 興味を持ってもらうために・参加したくなるような	派遣企業、派遣労働者受入企業、技能実習生受入企業？ 大企業、中小企業？ どういったターゲットが効果的か…	対象		
	<ul style="list-style-type: none"> ・企業が、現時点でどれくらい危機意識があるか知る必要がある。 ・市役所が、企業を重視しているように、企業も「住みやすさ」を重視している。 ・労働者は、労働条件だけでなく、「住みやすさ」も選択基準としているため、企業側の人材獲得とマッチングしている。 ・相互に協力する体制整備をし、連携を促してはどうか。 <p>※多文化交流センター卒業生や、磐南（定時制）の学生は、磐田市に対して強い愛着があり、親世代も住みやすさを評価している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・企業の社長、外国人労働者の同僚・上司など、外国人と関わる方々を分類して募る。 ・最も意識すべきは、派遣会社。 ・人材不足を課題とする企業 ・技能実習生の受入企業 ・磐南（定時制）卒業生は、正規雇用率が高まっており、企業からは引く手数多である。 ⇒このような情報から、ターゲットを絞るのも良い。 ※このほとんどが、市内企業に就職している。 日本と逆で、子ども世代は地元を選んでいる。 			
<th>広報</th> <td data-bbox="433 1060 964 1150">どこに、どんなPRが必要か？</td> <td data-bbox="964 1060 2427 1150" style="text-align: center;"> 企業に届くセミナーにするために より多くの企業に届けるために </td> <td data-bbox="2427 1060 2691 1150"> <th>その他</th> </td>	広報	どこに、どんなPRが必要か？	企業に届くセミナーにするために より多くの企業に届けるために	<th>その他</th>	その他
<ul style="list-style-type: none"> ・各種イベントの際に周知する。 ・派遣会社にポスターやチラシを配布する。 ・真面目な内容だけど、ゆるさやユーモアを感じさせる。 		<ul style="list-style-type: none"> ・セミナーと聞くと、固い場を感じて興味を持ちにくい。 そのため、外国人雇用又は雇用予定の企業の社長の集う、交流の場として開く。 ・外国人雇用のキッカケは「労働力が安いから」 しかし、日本人の労働者が減少傾向にあり、将来的に外国人財の獲得競争になる。 会社経営の応急処置的な対応をしている企業にこそ聞いてもらいたいが、興味を持ちにくいだろう。 			